



日本財団ウクライナ避難民支援

記者発表

ウクライナ避難民入国者数

2,179人

(出入国在留管理庁ウェブサイトより。2022年12月9日時点)

日本財団への支援申請数

1,924人 件数 **871件**

(2022年12月12日時点)

支援既決定数

総数 **1,608人**

<内訳>

渡航費 **1,313人**

生活費 **1,555人**

住環境整備費 **698戸**

(2022年12月7日時点)

ウクライナ避難民へのアンケート調査

■実施時期

2022年11月28日～12月12日

■回答数

750人

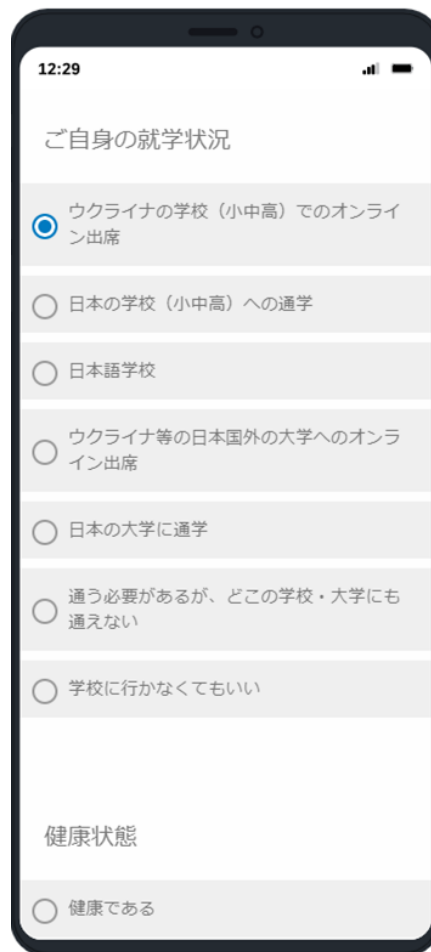
■実施方法

オンラインアンケート

- 日本財団の支援を受けているウクライナ避難民（18歳以上）に郵送・メールでアンケートのURLを送付
- SAPジャパン株式会社およびクアルトリクス合同会社により無償提供されたウクライナ避難民支援プラットフォームを活用

※グラフの数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

イメージ



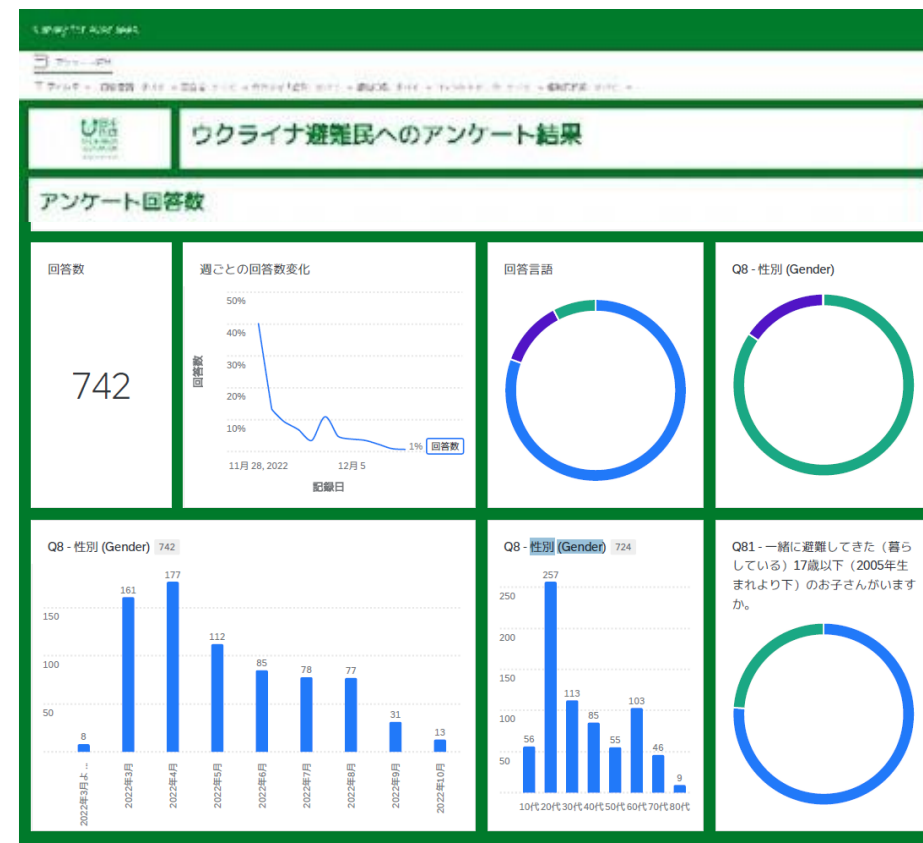
12:29

ご自身の就学状況

- ウクライナの学校（小中高）でのオンライン出席
- 日本の学校（小中高）への通学
- 日本語学校
- ウクライナ等の日本国外の大学へのオンライン出席
- 日本の大学に通学
- 通う必要があるが、どこの学校・大学にも通えない
- 学校に行かなくてもいい

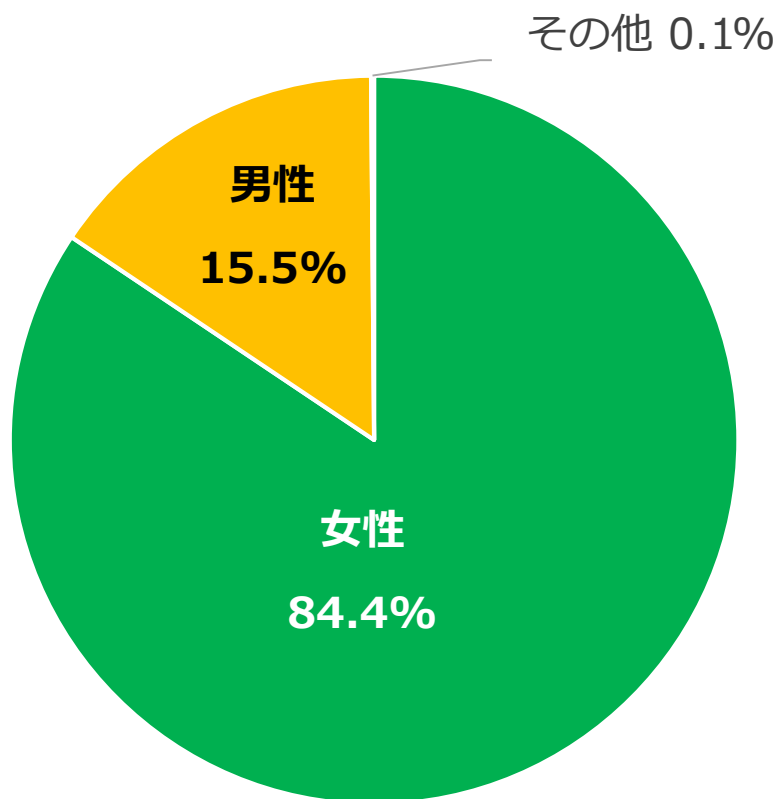
健康状態

- 健康である

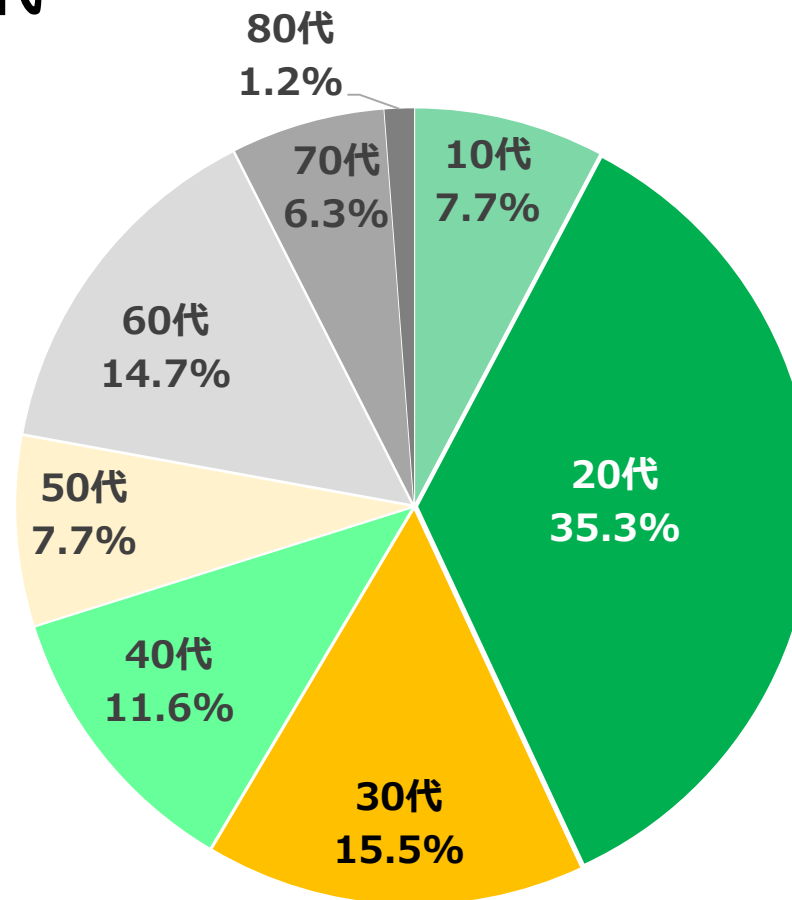


男女比

※アンケート回答者の男女比。日本財団の支援対象者の男女比は男性：25%、女性75%

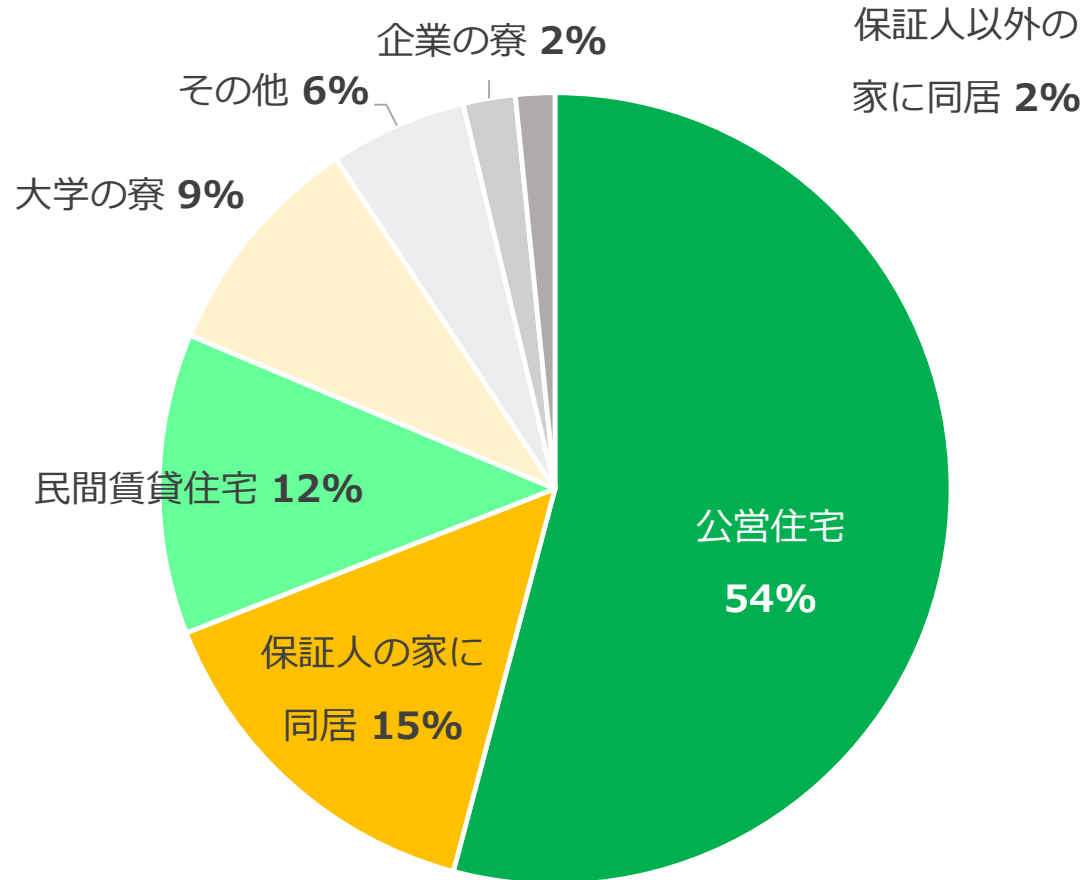


年代

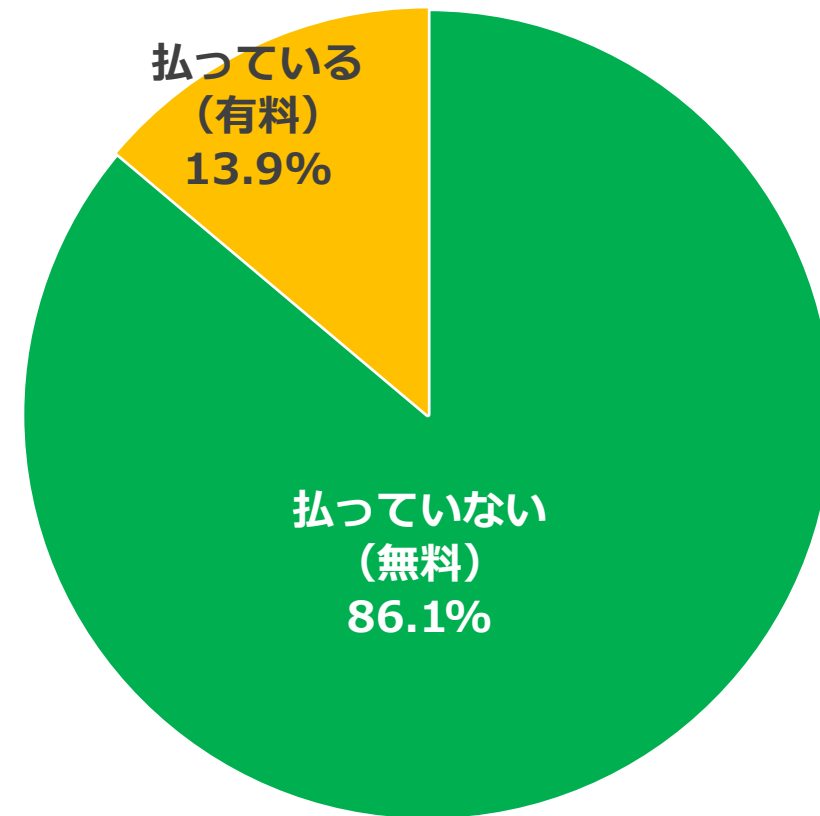


アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

どのような家に住んでいるか

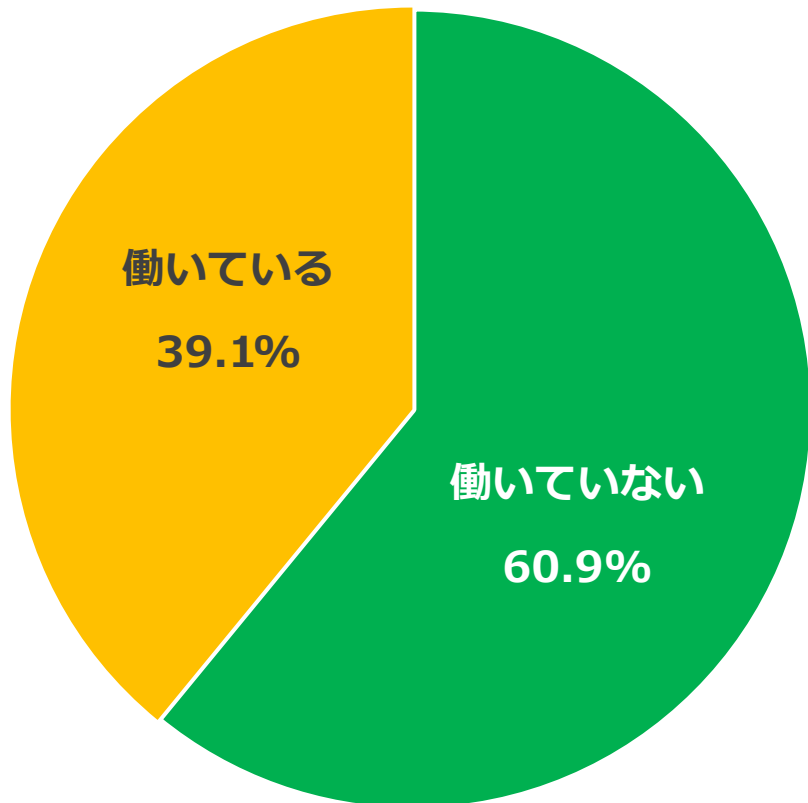


家賃を払っているか

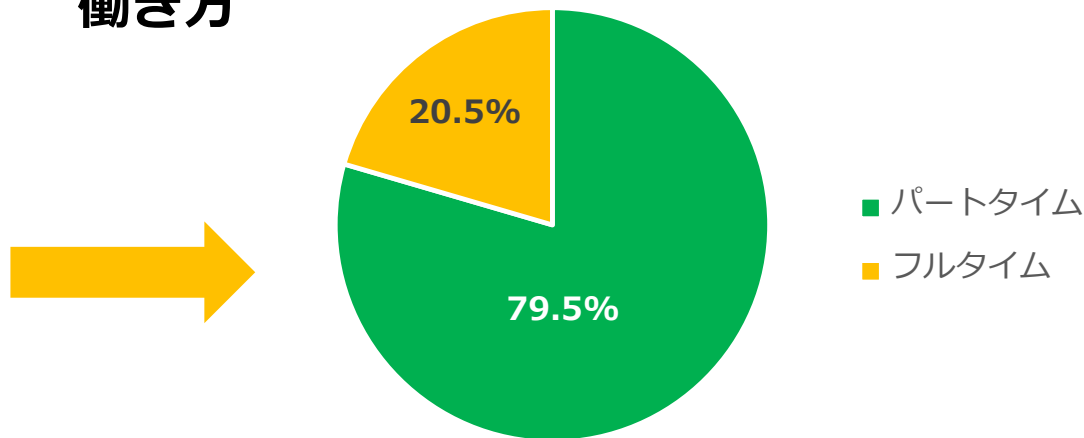


アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

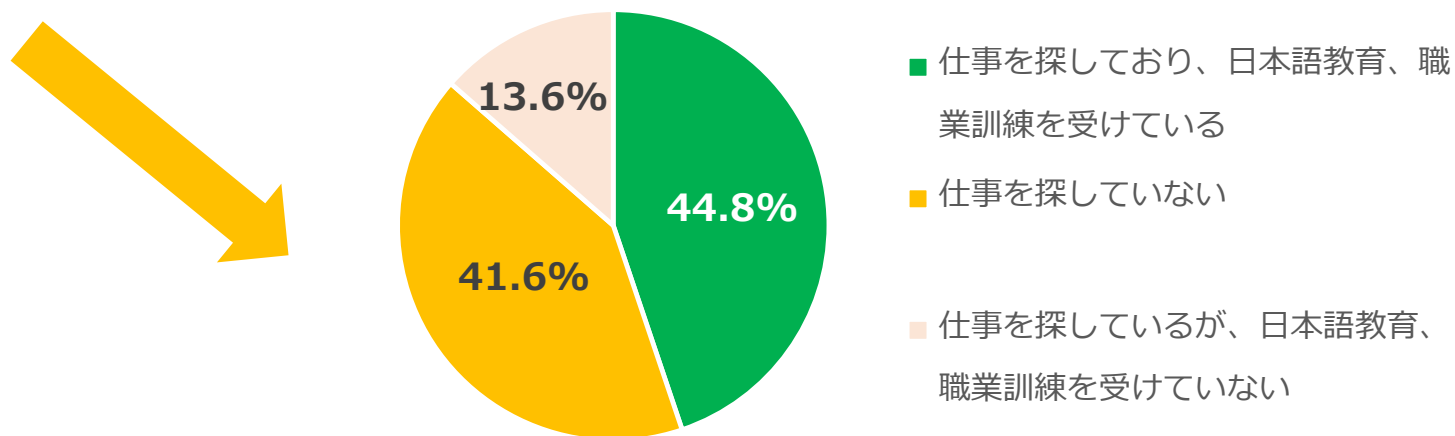
働いているか



働き方

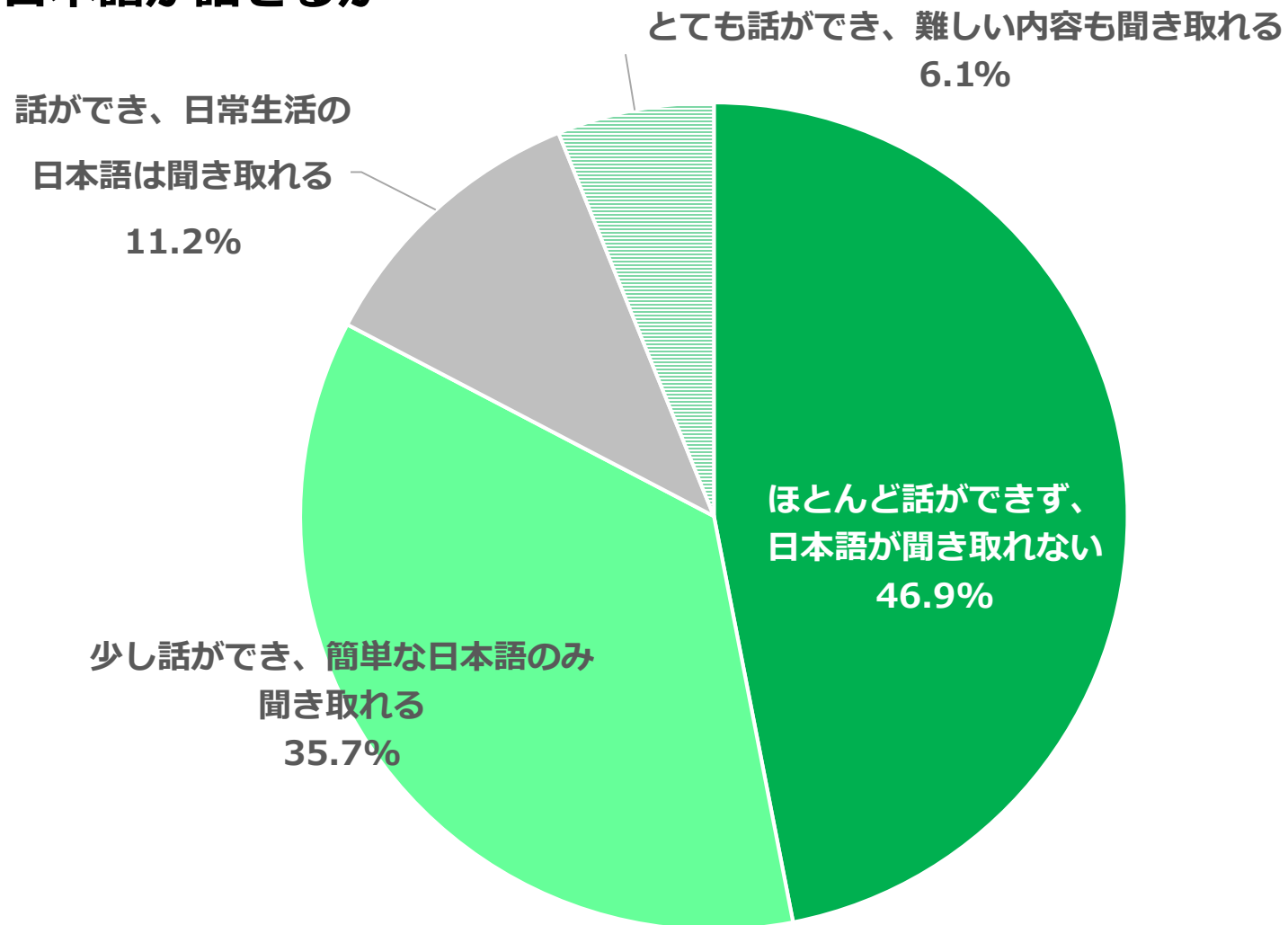


働いていない場合の状況

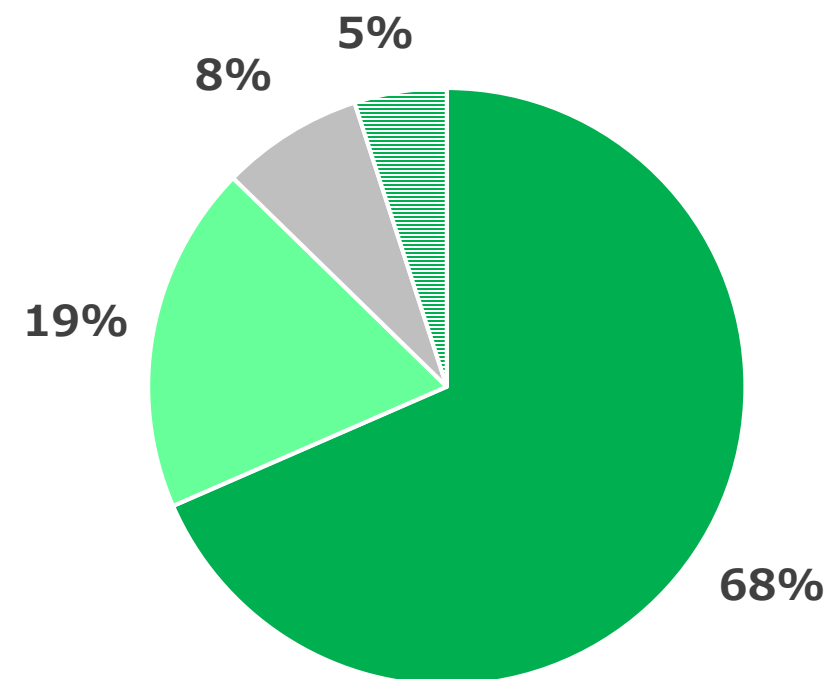


アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

日本語が話せるか

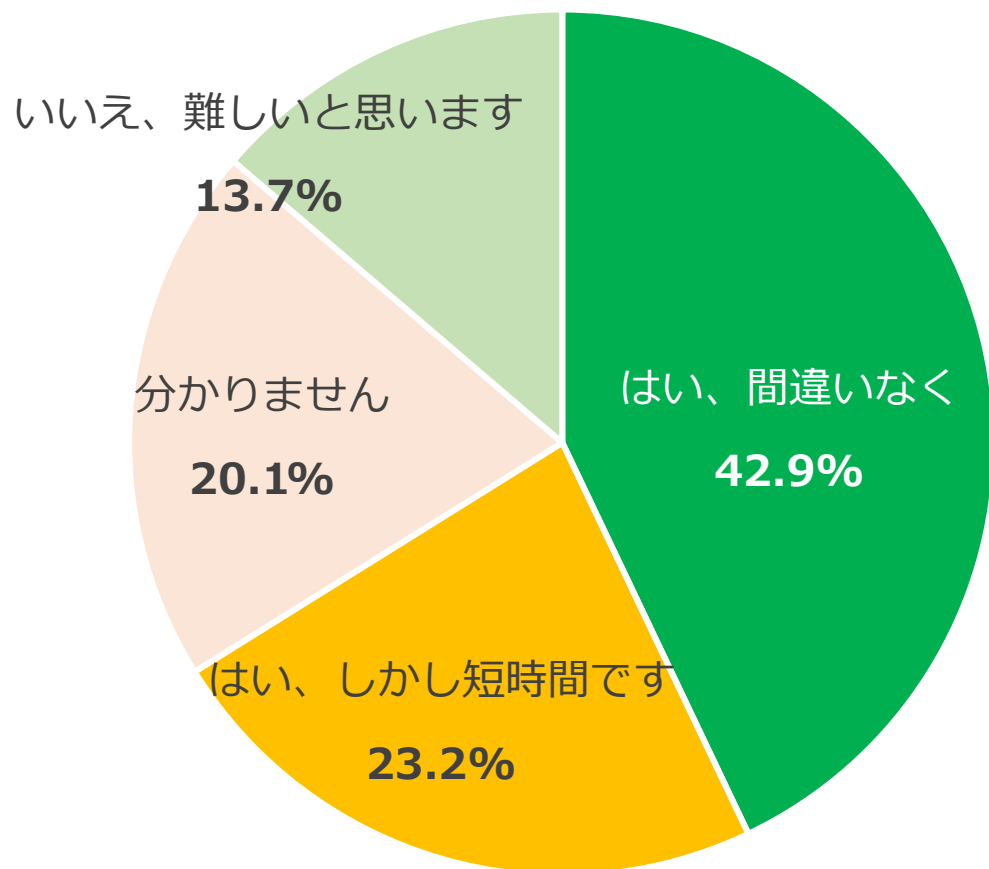


参考) 第1回アンケート
(2022年7月29日発表)



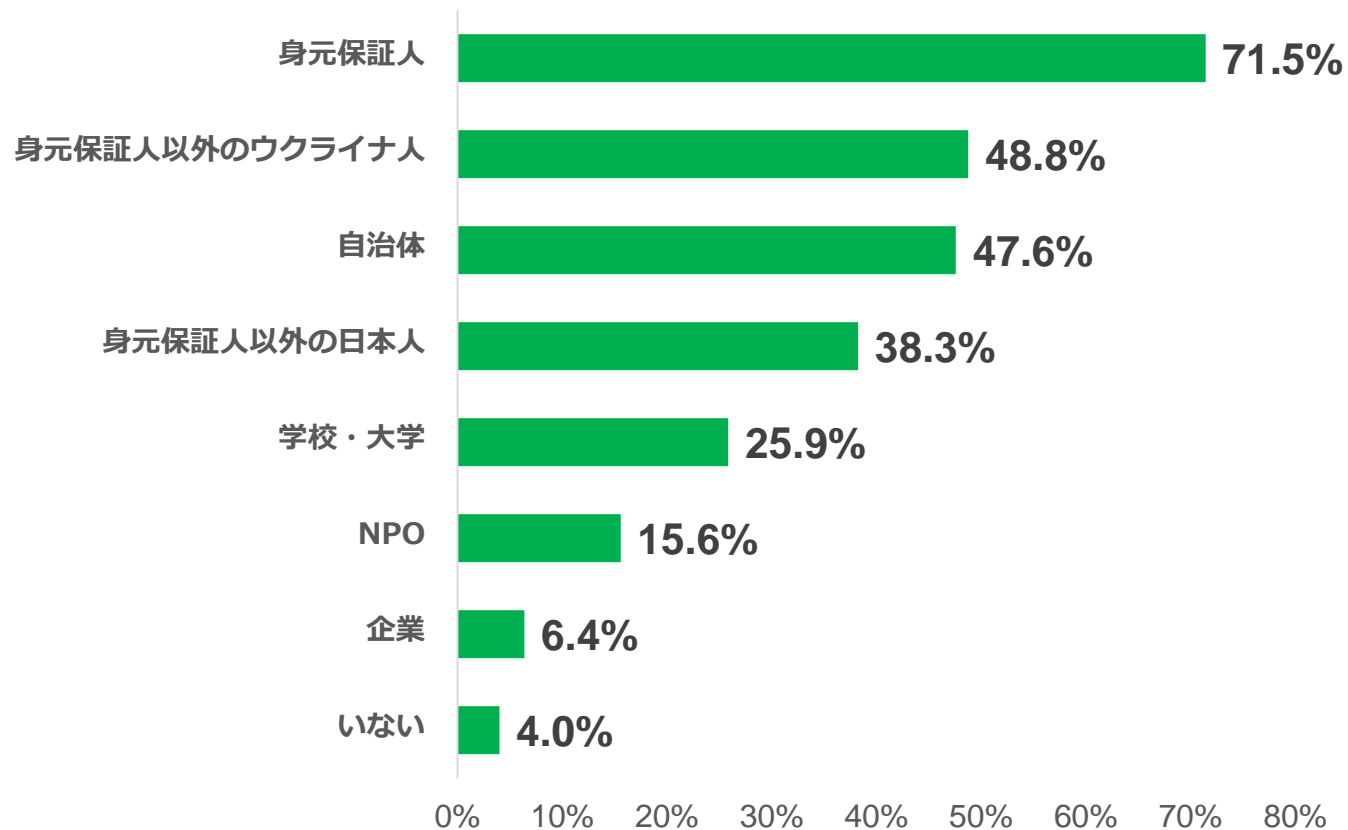
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

身元保証人にサポートする余裕があるか



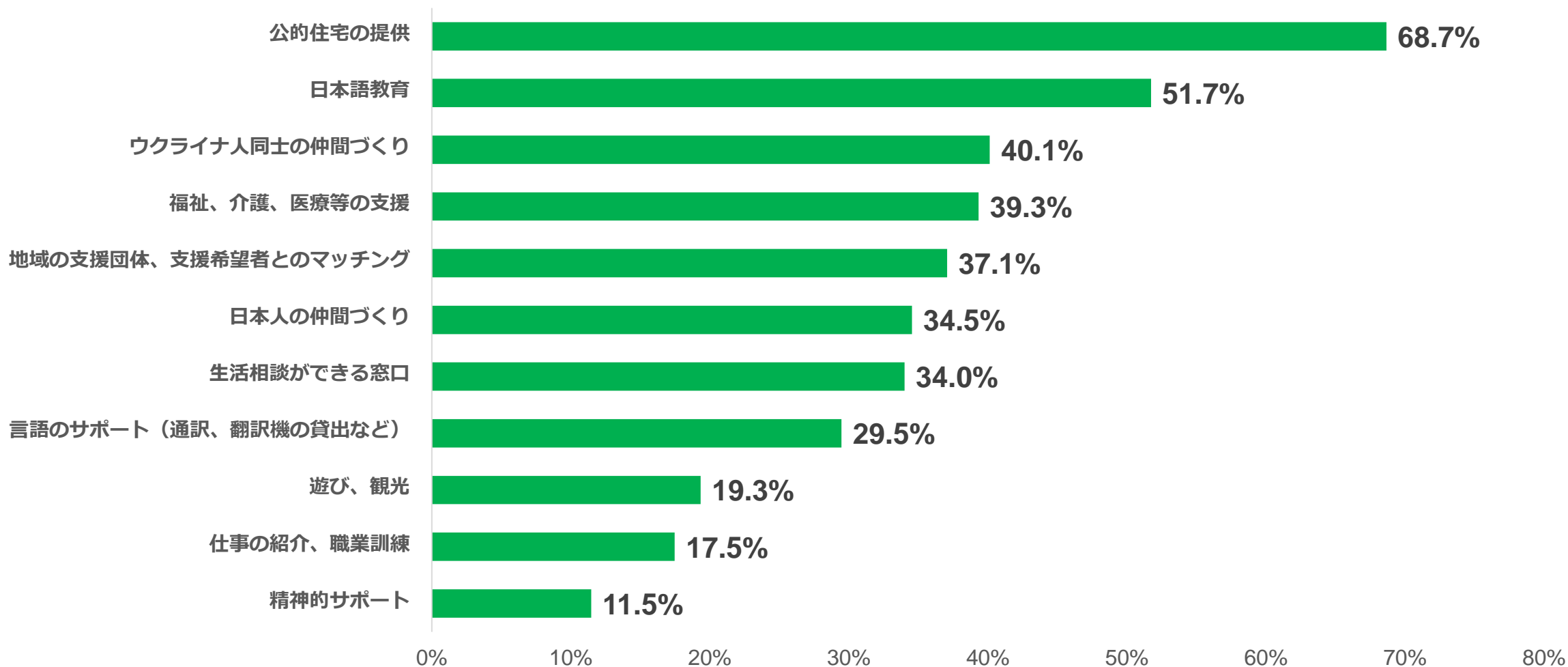
困ったときに相談できる存在

(複数回答)



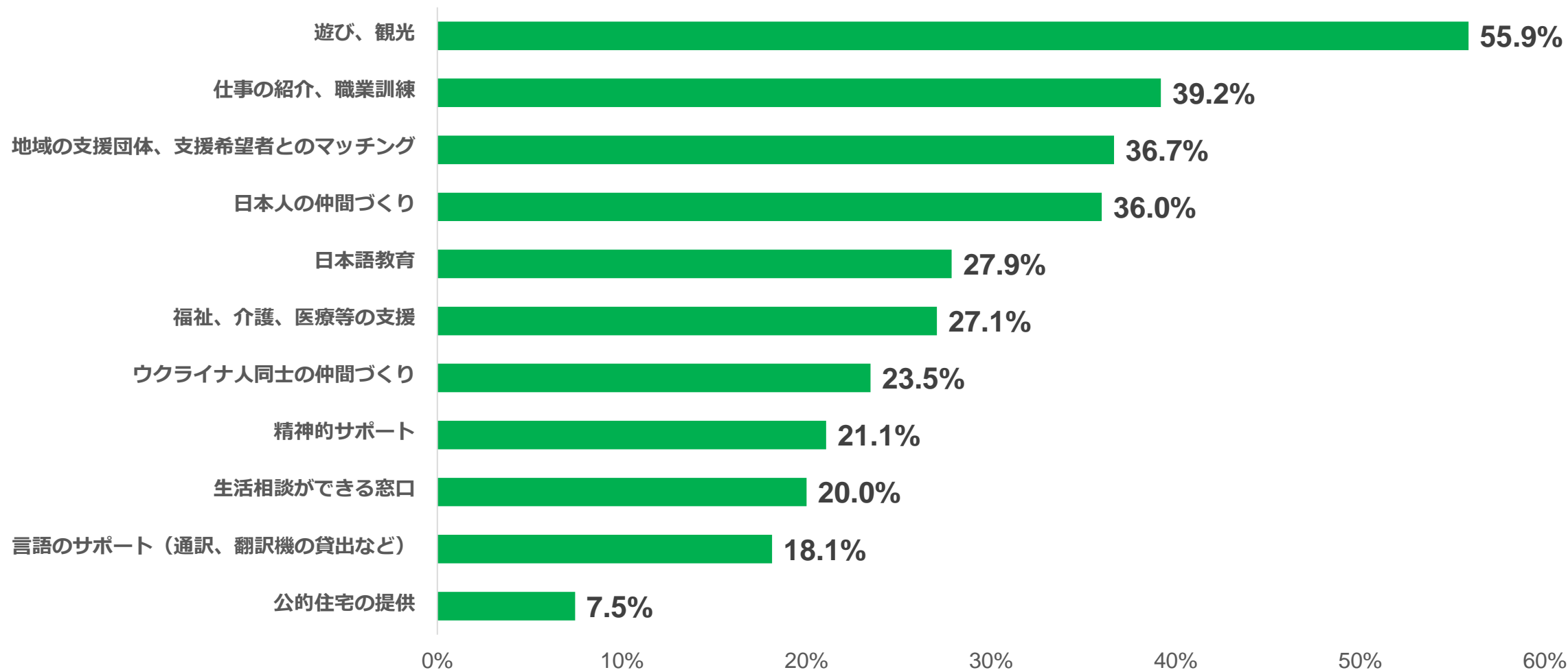
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

給付金、生活物資の提供以外で、受けている支援は何ですか。



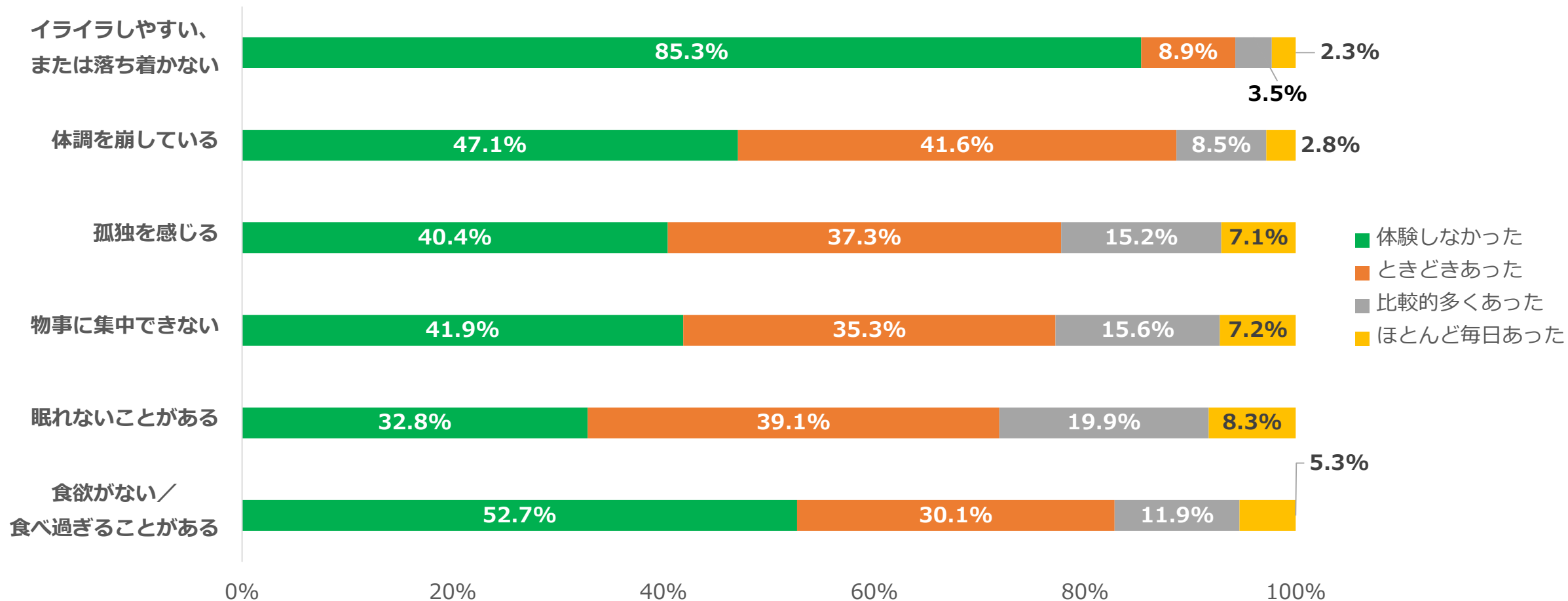
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

給付金、生活物資の提供以外で、必要な支援は何ですか。



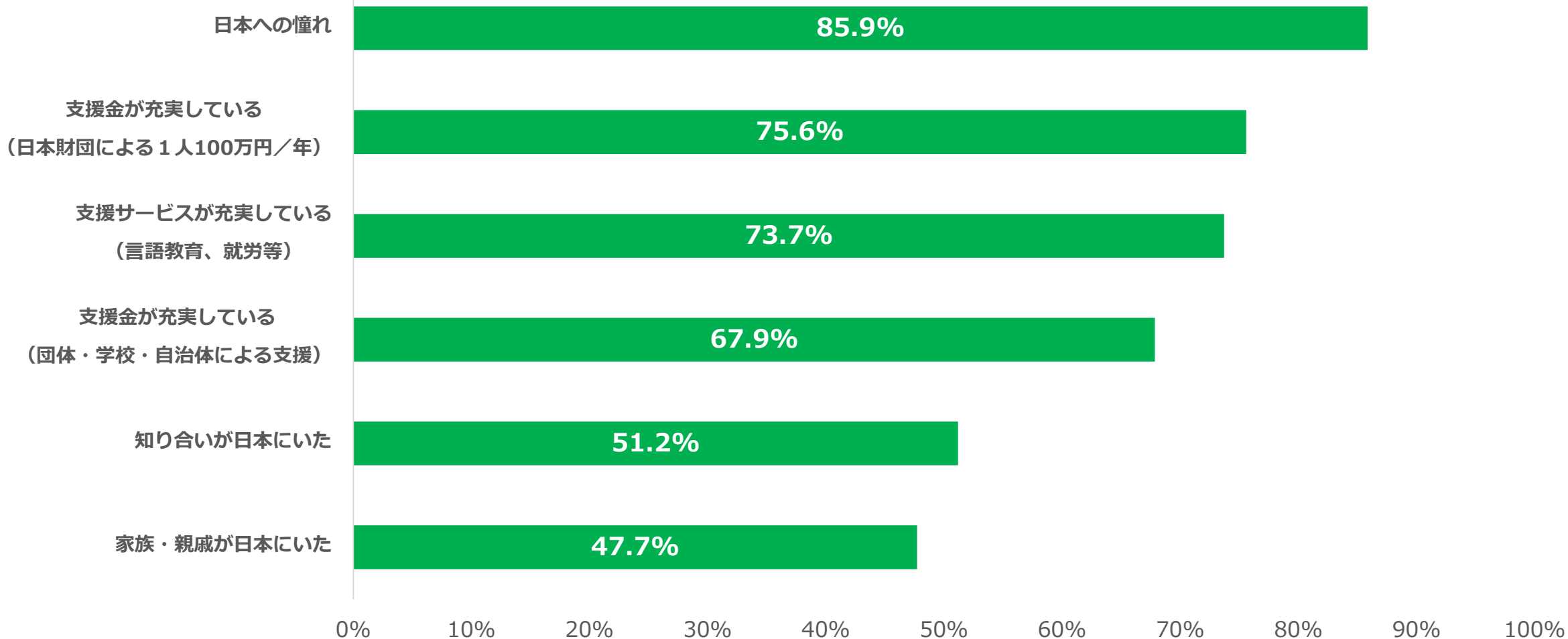
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

ここ2週間の状況であてはまるもの



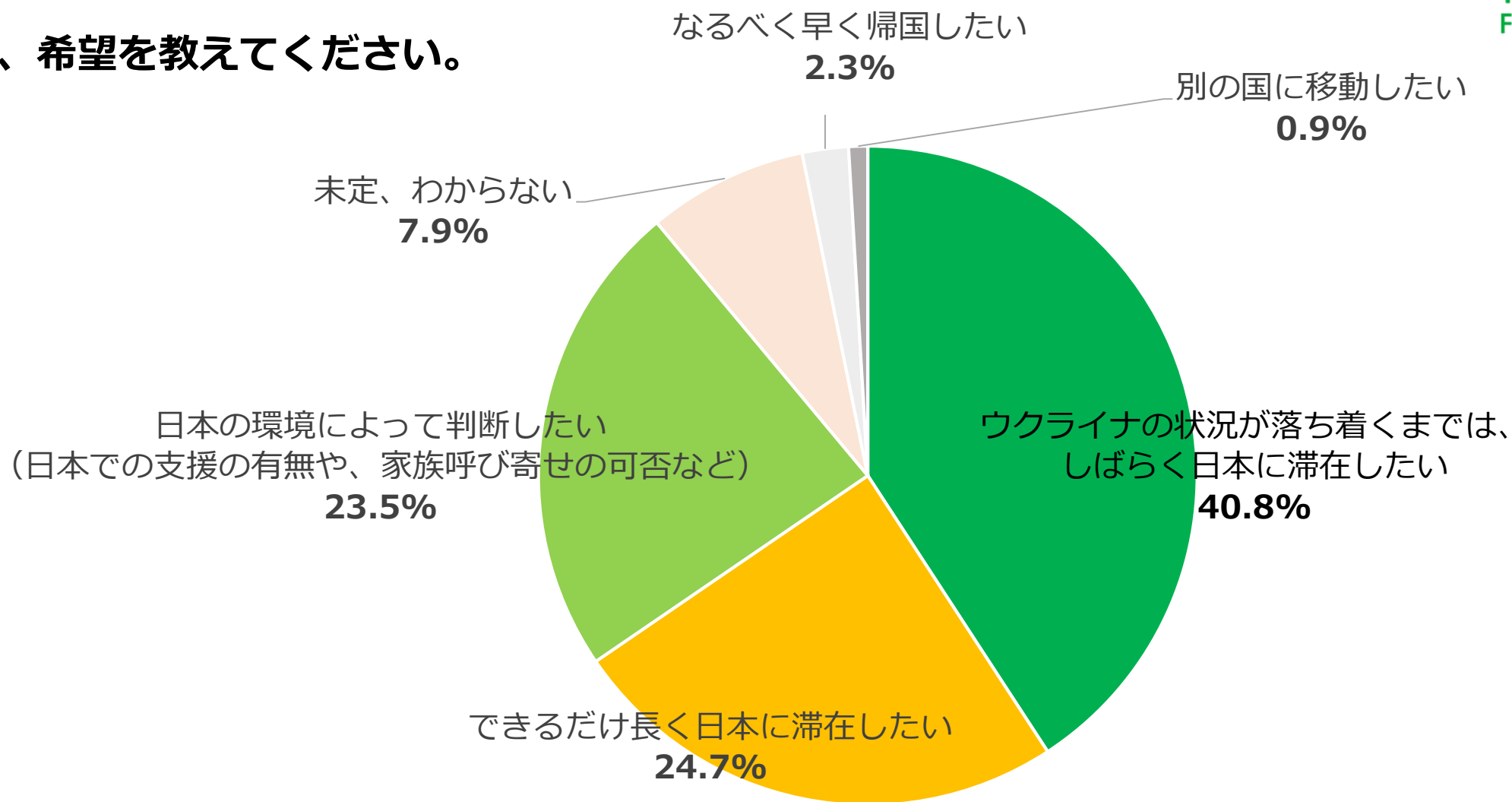
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

日本を選定した動機について、それぞれ動機の強さを教えてください。



アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

帰国の意思、希望を教えてください。



アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：750人

アンケート結果：コメント抜粋

まず言いたいのは、私は日本に対して最もポジティブな印象しかないということです。日本にしていると安心できます。ほとんどの住人はルールを守っており、私もそれを学びました。発展した経済、発展した技術と文化。この国では多くを学ぶことができます。（女性／30代／大阪）

2022年9月に日本に来ました。日本人と文化についてもっと学びたい。日本での生活はとても安全で素晴らしいです。私は働きながら日本語学校で学んでいます。勉強と仕事を両立させるのはかなり難しいですが、来年はN3、N2（※）合格を目指し最善を尽くします。（女性／20代／大阪）

日本財団から非常に重要な経済的支援を受けました。これにより、明日は暖かい家と食事ができるという安心感を得ることができました。私の娘（保証人）は、日本に約10年間住んでおり、日本での生活を大いに助けてくれます。しかし、私と家族の経済的負担が彼女の肩にのしかかるのではないかと心配していました。私は、親は子どもを支える存在であり、その逆ではないと考えてきました。年齢制限や病気により、今は働くことができませんが、近い将来、働けるようになることを願っており、今は日本語を勉強するために最善を尽くしています。ウクライナの人々は電気も暖房もない寒い冬を経験していますが、安全で暖かい場所にいることができ本当に幸運だと思います。（女性／60代／東京）

私は日本に行ったことはありませんでしたが、子ども達から聞いていました。緊急に故郷を離れる必要が生じたとき、子どもたちと日本に避難することを決意しました。日本のすべてが私にとって新しいものです。しかし、ここにはすでに新しい友達があります。（女性／60代／鹿児島）

日本財団に感謝します。私は日本に憧れています。この美しい国についてできるだけ多くのことを学びたいです。（男性／60代／東京）

私は日本での生活がとても好きです。日本人からの強い支援と気遣いを感じます。しかし、自己実現の機会は十分ではありません。言語をもう少し学び、新しい専門スキルを身につけ、日本と将来ウクライナの両方に役立つことを願っています。（女性／20代／神奈川）

ウクライナ人に対して、たくさん助けていただけてる方々に日々感謝しています。ただ毎日朝から寝るまでニュースを見ています。なかなか帰国できない状況で向こうの家族の心配や、自分の将来への不安が絶えませんが、日本の皆様へ、いつか恩返しができるという感謝の気持ちで生活させていただいています。本当にありがとうございます。（男性／30代／京都）

アンケート結果：コメント抜粋（課題）

来年3月で一年となり、現在ご支援頂いている居住先がいつまで利用できるか不安。（男性／60代／東京）

私たちは日本語を勉強しているので、すぐに周りの人とコミュニケーションが取りやすくなるといいのですが、当面は長男の教育が難しく、もうすぐ高校に入学するので心配です。（女性／30代／富山）

高齢者には仕事がほとんどない（男性／60代／福岡）

私の年齢では、新しい国での生活に順応するのは難しい。息子（保証人）と彼の妻は大いに助けてくれます。私はできるだけ早くウクライナに帰りたくて思っていますが、これはウクライナの占領が終わった後にのみ可能です。（女性／70代／神奈川）

無償提供された住宅はかなり古く、常に修理が必要です。流しにぶら下がっていたキャビネットが壁から落ちました。流しの下キャビネットは、コードが壁から突き出ているため、3カ月間シンクを使用できませんでした。雨で天井にドロドロの染みが広がっています。台所の流しが水漏れしており、隣人に浸水したり、健康上も安全ではありません。私の絶え間ない訴えにもかかわらず、修理は3カ月間行われていません。家賃が払えないからです。（女性／40代／神奈川）

私ともう一人のウクライナ人の女の子は、日本語学校プログラムに応募しました。しかし、私たちは希望とは異なる、日本に住む友人から非常に遠く離れた場所に送られました。私たちの学校でアジア人以外の外国人は私たちだけで、ヨーロッパ人は私たちだけなので、ここに住むのはとても大変です。仕事を見つけることにも難しく、給料も非常に低いです。家から徒歩20分ほどのところにスーパーが一つしかなく、丘の上に住んでいるので荷物を運ぶのは大変です。設備やインフラが整った場所に住むことは私にとって重要です。来年は東京に引っ越して、イベントに参加したり、友達に会ったり、仕事を見つけたりして将来のためにお金を貯めたいと思っています。（女性／20代）

現在住んでいる地域には、ウクライナ避難民の交流イベントがほとんどありません。支援金の支給もなく、日本財団からの支援がなければ大変でした。今は特に物価高を感じます。ほとんどの物はとても高く、出来るだけ古着屋で物を買ったりします。1番困るのは、介護用のリハビリパンツです。（女性／80代）